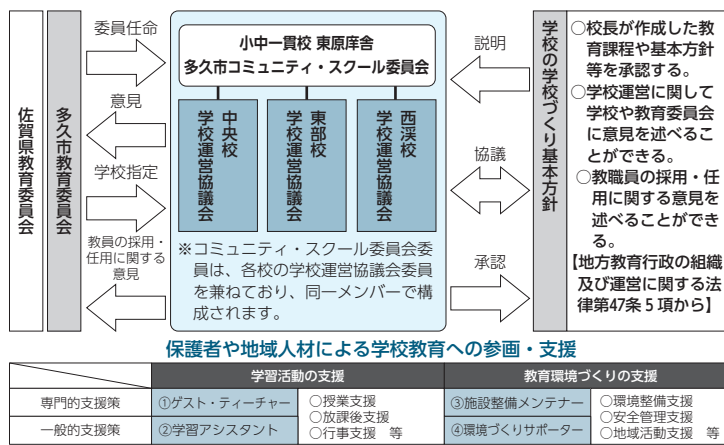


平成28年4月 多久市内全域で
「コミュニティ・スクール」導入

市内全学校に、法的な権限と責任を有する「学校運営協議会」を設置します。これにより、市民の学校運営への参画、学校教育活動への支援体制を整え、各学校が地域とともにある特色ある学校、コミュニティ・スクールとしてスタートします。これから、市民と共に作り上げる「多久市小中一貫校・コミュニティ・スクール」を学校・保護者・地域で推進していきます。

◆「熟議と協働」を通して、保護者や地域のみなさんが学校運営に参画



◆小中一貫教育とコミュニティ・スクールの連動させた学校づくり・教育実践への期待

○小中教職員同士また、保護者や地域とのつながりが、より強固なものとなり、協働力を生かした学習指導の実践
・児童生徒の学習意欲の向上
↓
・学力向上への高まり

○4・3・2年の3段階の学年区切りの中で、異学年を組み合わせたり、地域人材を活用したりする各種行事の実践
・児童生徒間の思いやりの心や豊かな心の育成
↓
・いじめの防止
・児童の中学校への期待、生徒の自己有用感の育成
↓
・心の安定と自信

○コミュニティ・スクール導入による保護者や地域住民の学校運営・教育への参画・支援
・学校教育活動への保護者や地域住民の関心と理解の高まり
↓
・教育活動全般に協力体制の広がり
・地域行事への児童生徒の参加の増加
↓
・地域の学校としての意識の向上



▲J A・農家との連携「田植え活動」



▲地域行事：多久聖廟「腰鼓」

問い合わせ 教育委員会 学校教育課 ☎75-12227

温故創新

市長コラム Message for citizen

さらに小中一貫教育日本一をめざして

市長 横尾 俊彦

「21世紀の学びを変えるICTを活用した小中一貫教育研究大会」が11月10日につくば市で開催され、そのプログラムのひとつである「ICT教育全国首長サミット」に招聘を受けて、パネリストとして参加しました。限られた財源の中、他に勝るとも劣らない教育充実を推進中の多久の一端を紹介し、発信しました。公開授業・3年生クラスでは、多久市立小中一貫校東部校とのネット中継授業もあり印象的でした。急遽「横尾市長さんも出演を」の紹介で登場し、励ましの手を振ると、両市の子どもたちも手を振って応じてくれ、良い交流授業でした。

多久市の小中一貫教育の状況と経緯も説明しました。ICT関連では平成21年に電子黒板を全校同時に全教室配備しました。実はこれが結構スゴイことだと分かりました。先進校でも各学年が各階に1台で、使用調整や稼働準備に時間も要するのです。専門家も、まずは電子黒板整備で教授法向上をとのこと。多久市では思い切って装備して良かったと感じました。導入に際しては、多久市ではICT支援員を各校に配置し、教職員サポートを行っています。これが肝心です。相談に応じて支援をしてもらえる専門員を置くことは教育現場には必要不可欠なことだからです。民間と連携したタブレットPC活用の学力向上プログラムも紹介しました。昨年末から今春にかけて取組み、実際に、短期間で子どもたちの学力も集中力も高まったことを説明しました。さらに「論語カルタに親しみながらの学び」も大きな反応がありました。学びの基本は全国的にも重視されているのです。日本一の小中一貫教育へ、大いに奮闘努力して参ります。

